

2026年3月期 第2四半期（中間期）

決算説明資料

2025年11月10日

日特建設株式会社

©2025 NITTOC Co.,Ltd.

Message

見えないところにこそ、私たちのプライドがある

| 社是

私たちは、見えないところにこそ、
誠実に技術を提供して、社会から必要とされる
企業であり続ける

| 経営理念

Mission

- 使命

安全・安心な国土造りに
貢献する会社

Value

- 価値観

基礎工事における総合技術力と
効率的な経営

Vision

- あるべき姿

信頼される技術力に培われた、
環境・防災工事を主力とした
基礎工事のエキスパート

1	連結 業績サマリー	P4～5
2	連結 四半期推移	P6～7
3	連結 工種別推移	P8～10
4	連結 貸借対照表	P11
5	連結 業績予想	P12
6	トピックス	P13

1-①.連結業績数値 サマリー（単位：百万円）



◆ 受注高：前期比107%、前々期比108%

基礎・地盤改良工事での北海道新幹線延伸工事や本明川ダムのグラウト工事などの大型工事獲得や法面工事での能登半島地震の復興工事の受注に加え、連結子会社に加わった麻生フォームクリート株式会社の計上分などにより、前期比107%。

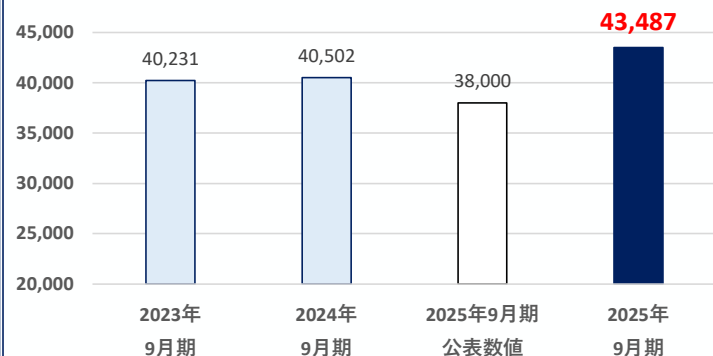
◆ 売上高：前期比125%、前々期比108%

当第2四半期連結累計期間に寄与する手持ち工事が多かったことにより、前期比125%。

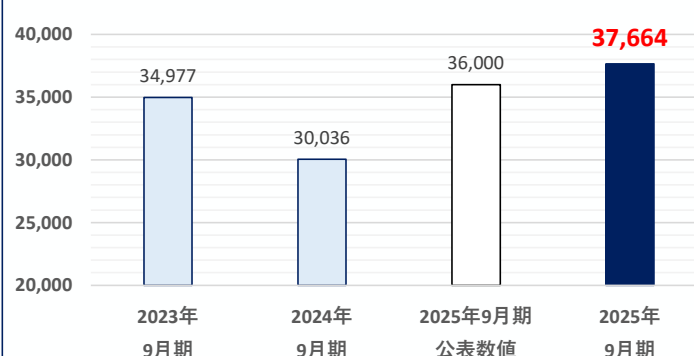
◆ 営業利益：前期比396%、前々期比115%

利益率が想定を下回ったため公表数値には届きませんでしたが、売上高増加により、前期から大幅に改善し、前期比396%。

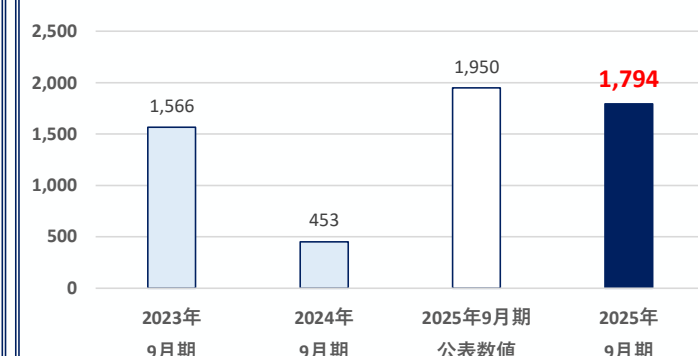
受注高



売上高



営業利益



1-②.連結業績数値 サマリー（単位：百万円）



連結	2023年 9月期	2024年 9月期	公表数値	2025年 9月期	対前年		対公表	
					差異	%	差異	%
受注高	40,231	40,502	38,000	43,487	2,984	107%	5,487	114%
売上高	34,977	30,036	36,000	37,664	7,627	125%	1,664	105%
売上総利益	5,828	4,936	6,800	6,673	1,736	135%	△ 127	98%
販売費及び一般管理費	4,261	4,483	4,850	4,878	395	109%	28	101%
営業利益	1,566	453	1,950	1,794	1,341	396%	△ 156	92%
経常利益	1,630	482	1,950	1,866	1,383	387%	△ 84	96%
親会社株主に帰属する 中間純利益	1,100	235	1,300	1,182	947	502%	△ 118	91%

2-①.連結 四半期推移（単位：百万円）

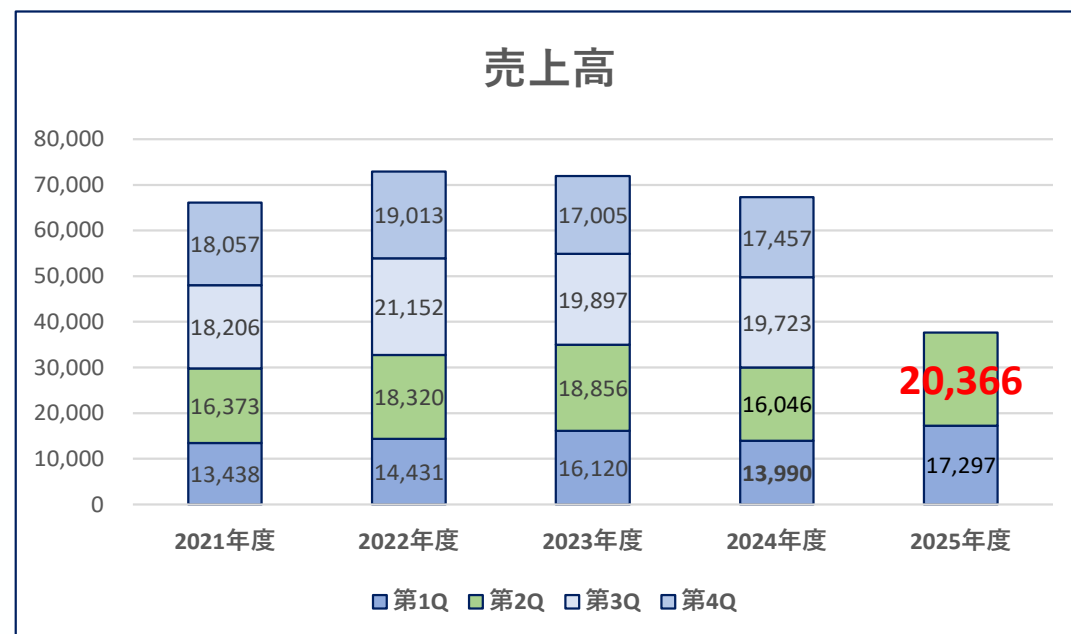
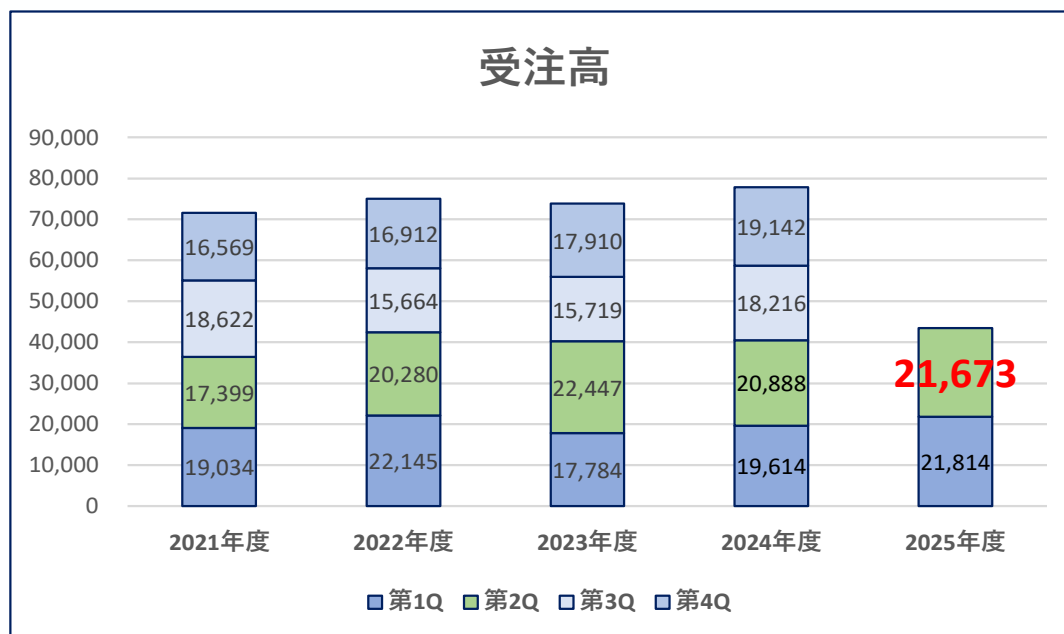


受注高：第2四半期期間（7-9月）**216億円**（前期比**104%**）7億円の増。

基礎・地盤改良工事における本明川ダム グラウト工事などの大型工事獲得により、前期比104%。

売上高：第2四半期期間（7-9月）**203億円**（前期比**127%**）43億円の増。

当第2四半期期間に寄与する手持ち工事が多かった影響により、前期比127%。



2-②.連結 四半期推移（単位：百万円）



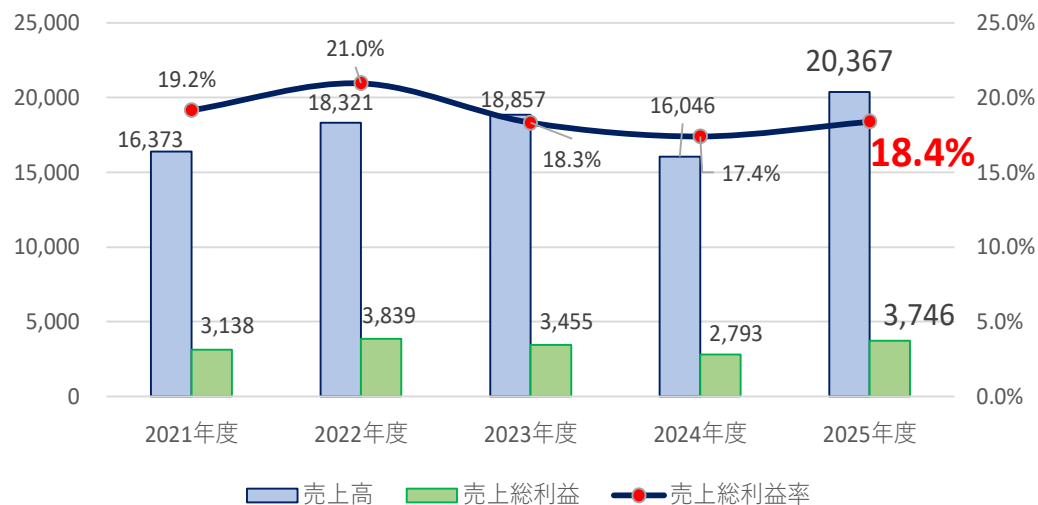
売上総利益率：第2四半期期間（7-9月）18.4%（前年同期1.0ポイント向上）

売上高の増加に加え、当第2四半期期間においても全社を挙げて受注時からの原価統制を継続したことなどにより、売上総利益率は18.4%。

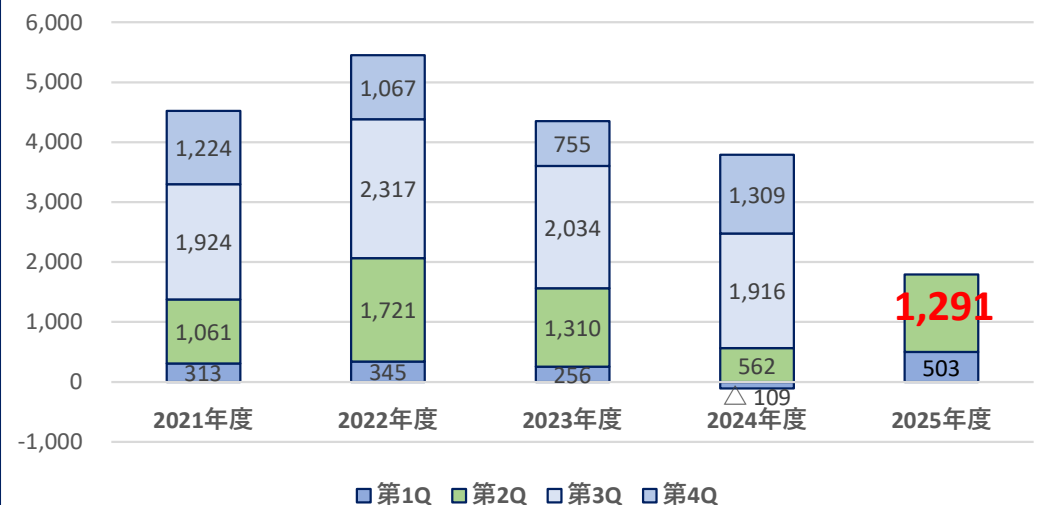
営業利益：第2四半期期間（7-9月）12億円（前年より7億円増）

売上高の増加により、12億円と前期から大幅に増加。

売上総利益率



営業利益



3-①.連結 工種別受注高（単位：百万円）



基礎・地盤改良工事：153億円（前期比105%） 法面工事：196億円（前期比104%）

補修工事：50億円（前期比110%） その他（土木一式、推進工事他）：35億円（前期比132%）

基礎・地盤改良工事は本明川ダム グラウト工事などの大型工事の受注があったため、前期比5%増、法面工事は、能登半島地震の復興工事の受注などにより、前期比4%増、補修工事は、麻生フォームクリート株式会社の気泡コンクリート工事により、前期比10%増、その他は、推進工事が26億円 前期比71%と増加したため、35億円 前期32%増、全体では前期比7%増。

受注高 (連結第2四半期)	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	対前期	
						増減	%
基礎・地盤改良工事	12,398	18,285	15,125	14,474	15,300	826	105.7%
法面工事	18,649	18,616	16,955	18,828	19,654	826	104.4%
補修工事	3,260	4,179	3,691	4,543	5,011	468	110.3%
その他	2,123	1,345	4,459	2,656	3,519	862	132.5%
合計	36,430	42,426	40,231	40,502	43,487	2,984	107.4%



3-②.連結 工種別売上高（単位：百万円）

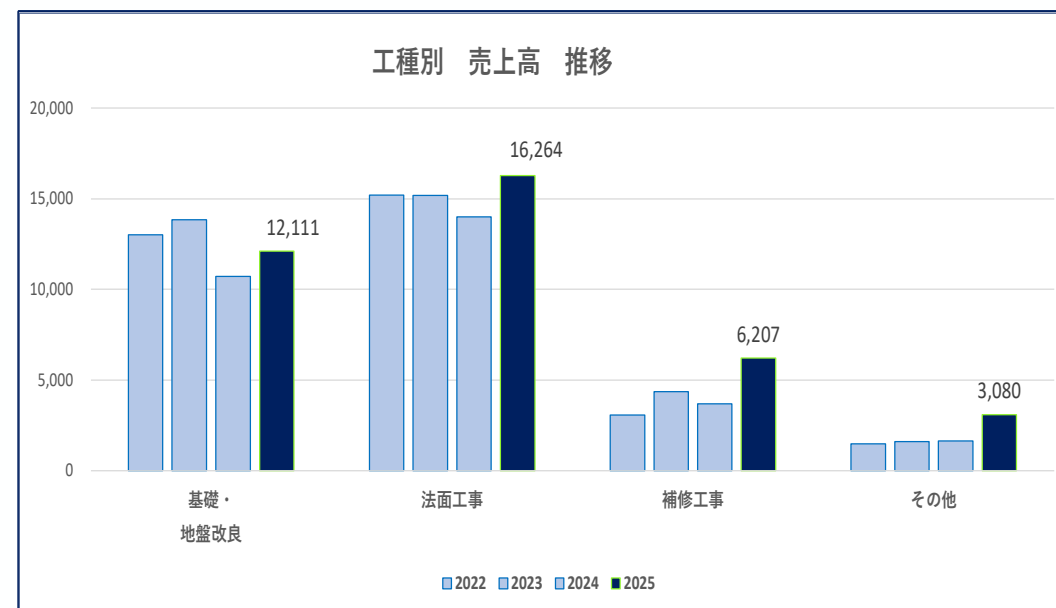


基礎・地盤改良工事：121億円（前期比112％） 法面工事：162億円（前期比116％）

補修工事：62億円（前期比168％）

当中間連結会計期間に寄与する手持工事が多かったことや、基礎・地盤改良工事、補修工事については麻生フォームクリート株式会社の計上などにより、前期比125％。

売上高 (連結第2四半期)	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	対前期	
						増減	%
基礎・地盤改良工事	8,948	13,006	13,843	10,723	12,111	1,388	112.9%
法面工事	16,214	15,200	15,186	13,999	16,264	2,265	116.2%
補修工事	3,202	3,072	4,343	3,684	6,207	2,523	168.5%
その他	1,444	1,470	1,603	1,630	3,080	1,450	189.0%
合計	29,808	32,752	34,977	30,036	37,664	7,627	125.4%



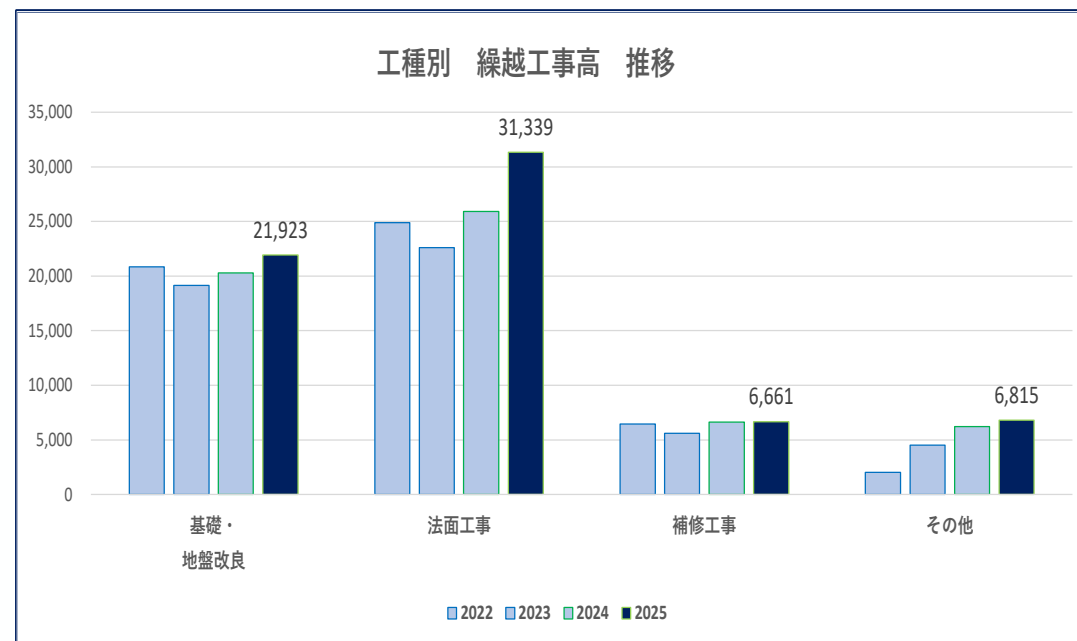
3-③.連結 工種別繰越工事高（単位：百万円）



基礎・地盤改良工事：219億円（前期比108％） 法面工事：313億円（前期比121％）

基礎・地盤改良工事が前期比108％、法面工事が同 121％、補修工事が同 100％となり、前期比113％の繰越工事高を確保。

繰越工事高 (連結第2四半期)	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	対前期	
						増減	%
基礎・地盤改良工事	17,918	20,855	19,155	20,284	21,923	1,638	108.1%
法面工事	21,919	24,887	22,582	25,908	31,339	5,430	121.0%
補修工事	3,471	6,453	5,608	6,634	6,661	27	100.4%
その他	2,281	1,996	4,511	6,221	6,816	595	109.6%
合計	45,589	54,191	51,856	59,050	66,740	7,689	113.0%



4.連結 貸借対照表（単位：百万円）



資産の部

	2024年 9月期	2025年 3月期	2025年 9月期
流動資産	39,128	40,342	40,300
うち、現金預金	20,237	18,151	16,535
うち、受取手形・完成工事未収入金等	16,958	20,192	21,270
うち、未成工事支出金	551	349	511
固定資産	13,083	16,603	17,393
有形固定資産	6,672	9,879	10,366
無形固定資産	520	476	439
投資その他の資産	5,890	6,247	6,587
資産合計	52,212	56,946	57,694

負債・純資産の部

	2024年 9月期	2025年 3月期	2025年 9月期
流動負債	14,946	17,547	17,879
うち、支払手形・工事未払金等	10,255	12,359	7,300
うち、未成工事受入金	1,646	1,258	1,432
固定負債	4,096	4,830	4,829
負債合計	19,043	22,378	22,709
純資産の部	33,168	34,567	34,985
負債純資産合計	52,212	56,946	57,694

総資産は57,694百万円、これは主に能登半島地震の復興工事に対応するための施設建設や地盤改良工事の受注拡大を目的とした機械装置の購入による機械、運搬具及び工具器具備品の増加などによる。負債合計は22,709百万円、純資産合計は34,985百万円となった。

5.連結 業績予想（単位：百万円）



連 結	2023 年度 実績	2024 年度 実績	2025 年度 予想	対前年		対前々年	
				差異	%	差異	%
受注高	73,861	77,861	77,000	△ 862	99%	3,139	104%
売上高	71,881	67,216	76,000	8,783	113%	4,119	106%
売上総利益	12,708	12,562	14,700	2,137	117%	1,992	116%
販管費	8,352	8,883	9,700	816	109%	1,348	116%
営業利益	4,357	3,679	5,000	1,320	136%	643	115%
経常利益	4,397	3,764	5,000	1,235	133%	603	114%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,066	2,408	3,350	941	139%	284	109%

通期業績予想については、現段階では、2025年5月9日に公表いたしました数値から修正はありません。
 今後の受注や業績動向により修正の必要が生じた場合は速やかに開示いたします。
 下期についても、更なる受注高確保、利益確保のため施工の促進と原価低減に努めてまいります。

6.自動充電ポート付きドローンを活用したのり面工事の遠隔測量



建設業界では、人手不足や高齢化、働き方改革への対応、安全性向上などが大きな課題となっています。こうした課題解決に向け、当社は9月19日に、KDDIスマートドローン株式会社、KDDI株式会社と共同で、自動充電ポート付きドローンを活用したのり面工事の遠隔測量実証を実施しました。

実証では、衛星通信サービス「Starlink」により現場に通信回線を確保し、遠く離れた事務所からドローンを遠隔操作しました。この技術により、以下の効果が得られます。

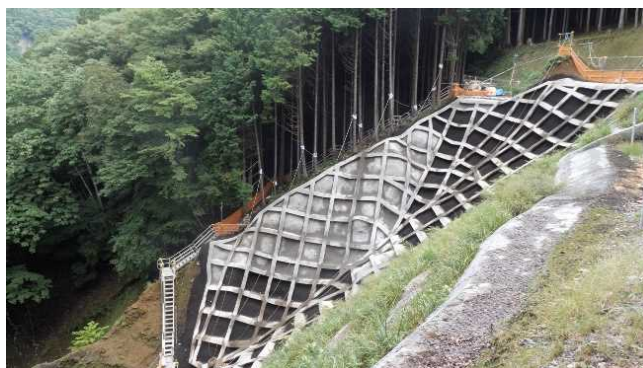
効率的な人員配置：操縦技能を持つ社員が長時間かけて現場へ赴く必要がなく、複数現場を同時に担当可能

安全性向上：目視外飛行が可能のため、災害現場などの危険区域も遠隔で確認でき、社員のリスクを低減

解析スピード向上：撮影データが即座に解析用PCに転送されるため、解析結果をより早く提示可能



自動充電ポート付きドローン 及びStarlink。
ドローンは遠隔操作により充電ポートから飛行し、撮影後に充電ポートに戻ります。



測量を実施したのり面現場。凹凸のあるのり面の撮影は従来の自動運転では困難でしたが、当社で培ったノウハウを活かして撮影できます。



現場から65km離れた事務所にて、ドローンからの映像をリアルタイムで確認できます。